

災害に備えての準備

全員が共通で使用する備品等については、行政に任せることとして、個人的に準備しておかなければならないものは、日常的に、使用している『常用薬』『化粧品』等の、他のものでは代用が利かない物と『保険証の写』等、身分を証明できる物が重要だと思います。

何時でも用意できると思わずに、今からでも準備しておくことが大切だと思います。災害は、忘れた頃にやってくる!! (大橋克世)

委員が考えた備蓄品の例

ボディシート(スースーするもの、しないもの)、ハンドクリーム(冬にあると嬉しい)、アイメイク用品(マスクをつけるのでアイメイクが重要)、非常用簡易トイレ、布ガムテープ(止血に使える)、アルコール除菌ジェル、除菌シート(トイレに流せるもの、手口用、台拭き用)、ソーラー多機能ラジオライト(スマホが充電できるもの、5000円くらい)、バッテリー、歯磨き粉、歯ブラシ、アレルギー対応食事、水のいらぬシャンプー、アイマスク、耳栓、スリッパ、乾電池、エア枕、ゴミ袋45L、買い物袋、新聞紙、ラップ、ウエス、化粧水、紙コップ、皿



編集後記

今年もまた、大雨や猛暑による大きな災害がありました。地球温暖化が進み気候変動が世界中で起こっているのです。私たちが出すゴミ、車の排気ガス等から発生する二酸化炭素が原因と考えられています。私たちが豊かに暮らす結果がまわりまわって温暖化を助長しているのだと思います。買い物のマイバッグ、食品を残さず使い切る、ゴミは極力少なく。温暖化を食い止めるために私にできることはそんな事です。小さな事から考えていきたいと思ひます。(O.Y)

さくら市 男女共同参画推進委員募集中

私たちと一緒に市の男女共同参画に向けた活動をおこなってみませんか? イベントの企画や情報紙の発行など、誰もが住みやすく明るいさくら市を目指して楽しみながら活動していきましょう!老若男女問いません。ぜひ、あなたの力を活かしてください!

問 総合政策課 ☎616-3557

◆編集:さくら市男女共同参画推進委員会 ◆発行:さくら市総合政策部総合政策課
〒329-1311 さくら市氏家1857番地(市民活動支援センター内)

TEL:028-616-3557 FAX:028-615-7973 E-mail:sogoseisaku@city.tochigi-sakura.lg.jp

さくら市男女共同参画情報紙

第27号

2021.11.30

らい

ゆう~

あなたらしく
生きられる
社会を目指して

ちよどい!
さくら市
SAKURA CITY

LIKE YOU



生理の貧困とは??

新型コロナの影響により、経済的な問題をかかえ、生理用品を入手することが困難な状態にある女性が増え、社会問題になっています。

さくら市では、市内企業の協力のもと、生理用品の無償配布の取組みを行っております。

生理用品配布場所一覧

@さくら市市民活動支援センター @氏家保健センター
@喜連川保健センター @さくら市役所こども政策課
@社会福祉協議会(氏家支部)

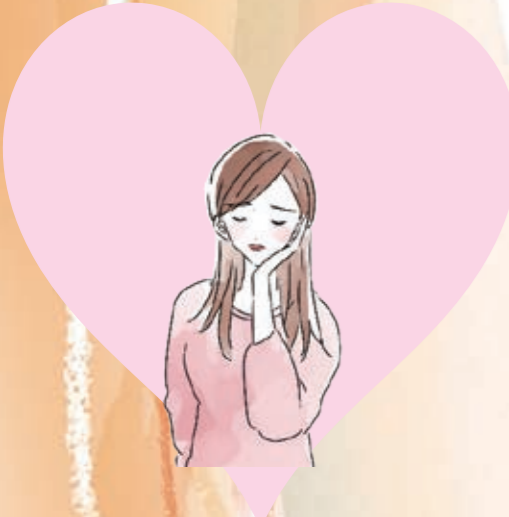
※その他、市内小中高等学校に提供しました。

第2、第3の選択肢

「生理の貧困」この言葉に違和感を覚えつつも、生活必需品である生理用品を購入するのが厳しい状況を、しっかり口に出す事ができるあたたかい雰囲気、もっと社会全体にあっという間と感じました。

生理用品の軽減税率適用への賛同署名活動なども行われ、今後の動向も気になっています。それと同時に、自分の体調をチェックしながら、洗って繰り返し使える、布ナプキンや吸水ショーツなどの選択肢も増えつつあります。使ってみると、意外と快適で、お手入れも楽。肌トラブルも軽減され、きっかけがあれば日々の生活の中に取り入れやすい事もわかりました。

いざ必要となるその前に、子ども達が、こういった商品があるのか、事前に学んだり、知る機会が増えていってくれたらと思います。(磯部理恵)



小山市男女共同参画フェアに参加して

「男女平等のためにあなたができること」 講師：上野千鶴子氏

上野先生は、まず今年2月の森元首相の発言問題を取り上げました。女性蔑視発言には、その場でイエローカードを出していくことが大切であり、人の本音を変えるのは難しいため、建前から変化させていくことが必要であるとお話されました。先生は、また、コロナ禍のような非常時には、平時の問題が拡大するとして、社会的弱者・女性の非正規雇用労働者へのしわ寄せや、シングルマザーの貧困等が顕著になっていると指摘されました。結びに、私たちは、若い世代にどんな社会を手渡したいか、そのために何ができるかを考えていく必要があるとおっしゃいました。



上野先生の言葉は非常に力があり、胸に響きました。昭和平成初期に比べ、女性の社会的地位は随分向上したと思います。こういった時代変化も、上野先生のような方々のご尽力のおかげなのだと感じています。

どんなに時代が変化しても、女性のみ可能なのが妊娠・出産です。女性が、安心して子どもを産み、地域ぐるみで子育てしながら、社会で活躍することができるように、私たちは日々考え行動を起こしていくことが大事であると痛感致しました。(鈴木知恵)

防災おやつリュックづくりワークショップを行いました!

小さなお子様がいるご家庭において、子どもに防災について学んでもらうことはなかなか容易ではないですね。でも、子ども達こそ前もって知っておくこと、準備しておくことが大切です。子ども達に防災について考えるきっかけ作りとして、このたび市民活動助成金事業の一環で「防災おやつリュック」作りを開催しました。



広報さくら9月号表紙に取り上げられました



これは過去に被災された方々の「初めて食べる防災食を食べてくれなかった」「配られたお菓子をとても喜んで」「被災したとき、子どもの笑顔に癒やされた」などの話を参考にさせていただき、楽しみながら防災について家族で考えてもらうことを目的としました。

子ども達は大好きなお菓子に目を輝かせ、ママと一緒にリュック作りを楽しんでいました。おやつも防災食となることを伝えると、「カバンにいっぱい詰めておかないとね」と話してくれたお子さんもいました。今後も乳幼児がいる世帯にむけて、防災に関する講座を考えていきたいと思えます。(小鍋貴子)

パーティ防災フォーラムに参加して

パーティ防災フォーラムに参加してきました。「防災になぜ男女共同参画の視点が不可欠なのか」をテーマに熊本地震発生時、熊本市男女共同参画センター館長の藤井有貴子さんのお話を聞きました。



熊本地震の際は女性リーダー主導で避難所作成、昼間は仕切りをオープンにし、子どもの遊ぶスペース、勉強スペースやカフェスペースなど女性視点の避難所ができたようです。また救援物資では生理用品を女性トイレに設置し、もらいづらかった点を改善したそうです。



その他にも男女共同参画の視点から性被害やDV防止など、平常時からの取り組み方を考えていかなければいけないと改めて実感しました。(渡邊文香)